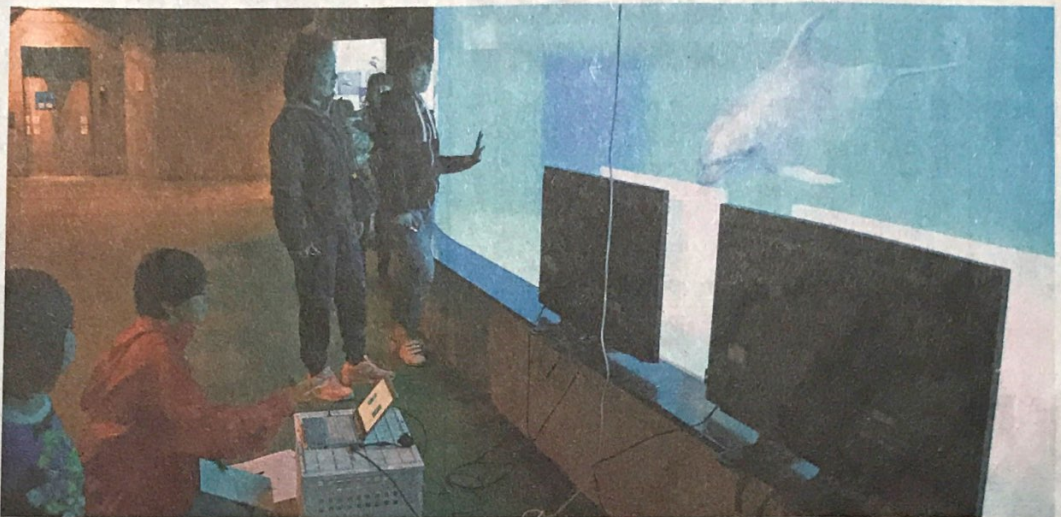


市圏

京大霊長類研・山本さん かごしま水族館で研究中

イルカは付き合い上手？



イルカのトレーナーを目指していた女性は、その生感を解き明かしたいと学究の道へ進んだ。かごしま水族館（鹿児島市）で日々、京大霊長類研究所の山本知里・学振特別研究員（33）は、イルカの認知能力を確かめる実験に没頭している。



山本知里さん

香川県出身。小さい頃からイルカが好きで、小学校の卒業文集には「トレーナーになる」と書いた。高校卒業後は大阪市内の動物飼育の専門学校に進み、飼育方法を学ぶ。ある休日、学校近くの海遊館（大阪市）を訪れた際、複数のイルカがホースで水遊びをしているのに出くわし

に編入し、動物行動学を専攻。縁あってかごしま水族館に通うようになり、3年前には鹿児島に生活拠点も移した。館スタッフの協力をもらいながら、イルカの認知能力を確かめる実験に力を入れる。餌づくりなど飼育員の手伝いもする。

22日は、モニター2台を使い、雌のマイル（28歳）が画面に映るイルカを見分けられるかを確かめた。1台にはイルカ、もう1台には魚の写真を映し、イルカが映るモニターに近づいてくるかを観察した。調子が良かった。イルカにも楽しんでもらえるよう工夫している。

将来的に「イルカが群れの中で互いに個体を認識しあい、人間のような社会生活を営んでいるかどうかを明らかにできれば」と語る。

（菅雄祐）

イルカのこと知っているか？

かごしま水族館は3月23日午前10時から「こごまわかった！イルカ研究最前線」と題する講演会を開く。山本さんをはじめ4人が登壇し、同館で行って

来月23日講演

る研究成果について分かりやすく話す。イルカのあかにかまれるホルモン量で分かるストレス状況や、超音波を使って障害物を認識する能力などが報告される予

定だ。
小学4年生以上が対象。定員70人（多数抽選）。入館料のみで聴講可能。3月9日までにホームページ、はがき、メール、ファックスのいずれかで申し込む。問い合わせは同館1099（2226）。